

国際化学肥料ニュース (2014年10月)

肥料業界の2014年10月動態

- * リン酸一安 (MAP) の南アと東南アジア品不足で、サウジアラビアが今年第4四半期から一部の DAP 生産ラインを改造して、MAP を生産することになる。

- * 2014年1~8月、中国の塩化加里輸入量が525.3万トン、去年同期より16%増、塩化加里輸入量の世界一の地位を守った。その内訳はロシアから156.3万トン(2%増)、イスラエルから102.1万トン(60%増)、カナダから98.7万トン(22%減)、ベラルーシから98.5万トン(45%増)、ヨルダンから38.2万トン(99%増)、ドイツから14万トン(33%減)、チリから9.2万トン(332%増)であった。

- * 10月に入って尿素用天然ガスの供給再開で、エジプトの尿素メーカーが10月上旬から生産を再開した。10月の尿素輸出量が大幅増えると予想し、大粒尿素のFOB価格が20~30ドル/トン値下げした。

- * トルコの尿素輸入量が急増した。今年1~8月にすでに100万トンを輸入した。今年の尿素輸入量が記録的な130万トンを超えると予測する。

- * ロシア産天然ガスの輸入減少で、ウクライナ政府が天然ガスの供給量を削減した。その影響で尿素メーカーが減産または操業停止に追い込まれた。Ostchem社のCherkassy工場が1本の生産ラインを残して、ほかの生産ラインを停止し、尿素生産量が1000トン/日に落ち込んだ。また、OPZ社も1本生産ラインしか稼働していない。現在、ウクライナ産尿素の輸出がほとんど停止した。

- * 9月20~30日、2014年IFAの化学肥料生産と国際貿易会議が北京で開催された。世界25カ国の化学肥料関係者約150名が会議に出席した。

- * 10月中旬、カナダのPotash Corp社がアメリカ北部のトウモロコシ栽培地域に向ける大粒塩化加里の価格を20ドル/トン値上げして、CIF価格452ドル/トンにすると通告した。国際市場における塩化加里の需要が旺盛で、メーカーが強気に出た。ほかのメーカーも値上げの意思を表明した。

- * ブラジル化学肥料協会が発表した統計データによれば、農産物の旺盛な需要により、農家が化学肥料の使用量を大きく増やした。ブラジル1~9月の化学肥料消費量が

2374.2万トンに達し、昨年同期より7.3%増加した。1～9月の化学肥料輸入量が1796.2万トン、輸入化学肥料の消費量が全消費量の75.65%を占める。

- * 10月下旬、チリSQM社はヨーロッパ向けの硝酸加里を一律に40ユーロ/トン値上げすると発表した。値上げの理由はユーロ対ドルの為替レートがユーロ安になったことである。ヨーロッパ以外の市場に対して硝酸加里をCFR950～1000ドル/トンの現行価格を維持する。

同じ理由で、SQM社はヨーロッパ向けの大粒塩化加里も15ユーロ/トン値上げした。これにより、ヨーロッパ市場の大粒塩化加里がCFR285～300ユーロ/トンになる。ほかの塩化加里メーカーも11月から大粒塩化加里をCFR300ユーロ/トンにする予定である。

- * ブラジル肥料協会（Anda）からのデータによれば、9月ブラジル肥料販売量が390万トンに達し、昨年同期より9.4%増、月単独の販売量として史上最高の記録を作った。2014年1～9月、ブラジルの肥料販売量が2370万トン、前年度より7.3%増であった。その内訳は、窒素肥料販売量が6%増、りん酸肥料が3.0%増、加里肥料が9.1%増であった。

大豆の栽培面積の拡大は肥料販売量の増加の最大要因である。2014～2015年度の大豆栽培面積が3060～3180万ヘクタールに達し、前年度より5.5%増である。また、トウモロコシ、綿、コーヒー、小麦も需要が旺盛で、肥料の販売量を押し上げた。

大手各社の営業業績

- * ロシアUralkali社は2014年第3四半期の塩化加里生産数量を公表した。塩化加里の需要旺盛で、7～9月に昨年同期より18%増の320万トンの塩化加里を生産した。これにより2014年1～9月に920万トン塩化加里を生産し、昨年同期より約200万トン増加した。

また、1～6月の塩化加里販売量が昨年同期より42%増の605.3万トン、その内訳は国内販売量97.8万トンで、昨年とほぼ同量であったが、輸出量507.5万トン、54%増の大幅増加であった。

- * サウジアラビアのSafco社は2014年第3四半期の業績を公表した。純利益1.70億ドル、昨年同期より24.4%増で、今までの5年間業績不振から脱出した。業績回復の理由は、尿素とアンモニアの販売量が増えた。但し、国際市場の尿素価格が低迷しているため、Safco社はすでに完成したNo.5の尿素生産ライン（生産能力3500トン/日）の正式生産を2015年第1四半期にする方針も発表した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ノルウェーYara 社は 3.14 億ドルを投資して、ノルウェーPorsgrunn 市にある肥料工場に 1 セットの硝酸合成装置を増設して、硝酸石灰と化成肥料の生産能力を拡張する。2017 年完成する予定。完成後、硝酸石灰の生産能力 20 万トン／年、硝酸性化成肥料生産能力 5 万トン／年を新たに増加する。
また、同時に Glomfjord と Uusikaupunki 両工場の化成肥料生産ラインを改良して、新たに化成肥料生産能力 15 万トン／年を増強する計画である。
- * 10 月 17 日、ベトナムに最初の硝安生産ラインを完成し、試運転を開始した。当該硝安生産ラインがタイビン省に建設され、投資総額 2.8 億ドル、ドイツから技術を導入したものである。2015 年から年間 20 万トン硝安を製造し、ベトナム国内硝安需要量の 80% を満たす。

その他

- * ベラルーシとトルクメニスタン政府が合弁肥料会社を新たに設立し、共同でトルクメニスタン産加里肥料を販売することに合意した。2010 年、ベラルーシとトルクメニスタン政府が協定を締結し、ベラルーシがトルクメニスタンの加里鉱山採掘と塩化加里精製工場の建設を請け負う。2012 年に加里鉱山と精製工場の建設を開始した。2016 年完成後、塩化加里生産能力が 160 万トン／年に達する。
- * エジプトからの報道によれば、天然ガスの不足で、化学肥料の生産量が落ち込んでいるため、化学肥料の価格が高騰している。政府が制定した化学肥料の公定価格が闇市場価格の半分しかないが、末端農家が必要な量を購入することができない。エジプト政府農業省が化学肥料の平均公定価格を 1500 エジプトポンド(約 210 ドル)／トンから 2000 エジプトポンド(約 280 ドル)／トンに引き上げる計画である。
また、化学肥料の公定価格の引き上げによる農家の損失を補うために、エジプト政府は次のような農家支援策を考えている。1.農家に肥料補助金を配る。2.政府が化学肥料メーカーから肥料を仕入れて農家に直接販売する。3.農産物の購入価格を引き上げて、農家の実収入を増やす。